

地域密着型サービスの自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各利用者を支援していける様、理念はつくっており、わかりやすい様事業所内へ掲示してある。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿い、各利用者を支援していける様極力努力している。	○ 毎月、職員が集まる機会があるので、再確認を行っていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時の契約の際、家族へは説明しているが、その後での説明が不足している。又地域住民に対しても説明が滞っていると思われる。	○ 家族、地域住民が運営推進会議に参加しており、それらを利用して伝えていけるようにしたい。又、ホームへ訪問した方へも広く伝えていけるようにしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎月、近隣からボランティア団体が訪問し、歌、踊り、本の読み聞かせを行っており、利用者との交流が図れるようになっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティア団体訪問による交流は図られているが、地域活動への利用者参加は年一回程度であり、乏しい状況にある。	○ 利用者の心身の状況にもよるが、参加できる行事等は極力参加できるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	現在、地域高齢者の暮らしに役立つ事に関しての 取り組みの整備はされていない状況にある。地域 高齢者、その他住民からの相談（医療、介護、入 居に関して）あった場合はできうる限りの支援は 行っている。	○	現在、利用者の家族へ対しては、年間の発行は不 定期であるが、ホーム便りを作成しており、将来 的には地域へ発信していきける様にしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員、評価に対しての意義は概ね理解してい る。評価結果に関しては開示はしているが、改善 項目に沿っての具体的な話し合い等が不足してい る状況である。	○	評価結果については職員だけでなく家族とも広く 共有（家族へも開示しているが共有度が低い）し ていき、良質なサービスにつながるよう改善して いきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	会議の場において利用者に対してのサービス実施 等の資料を作成しての報告、評価への取り組み状 況や結果の報告を行っており、意見交換等を実施 している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	利用者、その他ホームの状況について連絡をし たり、指導等ある場合は参加するようにしている。	○	細かい事項についても連絡等行い、関わりを密に していき、ホームのサービス向上につなげていき たい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る	制度を必要としているケースは今のところ発生は していないが、職員全体で学ぶ取り組みが不備で あり、家族等関係者への情報提供もされていない 状態にある。	○	制度等の資料を作成し、職員、家族などと学ぶ機 会をつくっていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	各職員、利用者に対しての言動にはできるだけ注 意を払っているが、法的に虐待を学ぶ機会の整備 がされていない状況である。	○	虐待防止に関する法令について資料を作成し、勉 強会を実施していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居希望時より家族へはホームの概要を説明するようにしており、相談をしている。入居時には運営者、管理者、家族立会いにて契約に沿って十分な説明を行い、理解、同意を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの意見、訴えなどは随時対応したり、月一回のミーティング時に話しあうようにしており、家族への連絡事項ある場合は連絡するようにしている。公的機関へ届け出るような事項は現在発生していない。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会の際は連絡し、訪問してもらった際に報告を実施しており、報告等は家族の状況に合わせ、日程の調整を行うなどしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームの苦情窓口の説明は入居時に十分説明し、面会や電話連絡をした際にも家族から希望、苦情ないか聞いており、苦情あった場合は苦情処理表へ記入しているが、ホーム外苦情窓口の説明が乏しい状況である。</p>	<p>○ ホーム内だけでなく、外部の窓口等の資料を作成し、家族へ説明していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月一回、職員全員によるミーティングを実施しており、職員からの意見、提案を発言する場をつくっており、極力取り入れるようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ホーム外での仕事など、人員確保が必要な場合があらかじめ判っている事項については、事前調整を行っている。利用者の急変など急な場合も随時対応できるよう努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	研修以外でも定期的な勉強会を設けるなどして質の向上を図りたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	同業者間での見学、情報交換等をしたりと、相互がサービスの向上につながるような機会をつくるための整備をしていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	ホーム外において、職員同士の食事会を行うなど、少しでもストレスを軽減できたらと思う。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		各職員の状況は把握していると思われ、勤務内容の調整を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前より本人へ面会、家族も立会い相談を行っており、入居時、入居後においても希望等聞く機会をつくっており、日常の生活の場でも表出した訴え等を受け止め、日々不安ができるだけ少なく生活できるよう配慮している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望時の相談あった場合、ホームへ訪問してもらい、相談行い話をする機会をつくっており、利用開始後も苦情、希望等の有無を聞き話をしており、必要に応じ電話での対応も行っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の希望があった場合、家族へはホームへ来てもらい現在の状況を聞き取るようにしており、他サービス利用も視野に入れ、家族の相談内容に沿ってできる限りのアドバイス等実施している。状況によっては本人もホームへ来てもらっている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時より家族、許されれば本人にも来てもらい、ホームの雰囲気を感じてもらおうようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の場において、職員、利用者全員一緒に食事を摂ったり、清掃、レクリエーション活動、食後の食器類の後片付け等共有することで相互関係を築くように支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問時、一緒に職員、利用者の輪の中へ入ったり、行事参加するなど、気軽に話ができるように場所、時間を共有しており、関係構築の支援を行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族との関係は入居前の相談や、入居後の家族訪問の際、職員との会話の中で表出しており、状況が悪くならないよう配慮している。	○	各家族様々な事情はあるが、面会、行事参加等への呼びかけを多くして本人と接する機会をつくりたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会、外泊、外出は特別な理由がない限りは原則自由であり、その他本人と関係をつなぐもの（電話、手紙等）も自由であり、希望訴えあった場合は極力対応するようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員参加でのレクリエーション活動、食事、席の配置、食事の後片付け等、極力利用者同士が孤立をせず関われるよう配慮している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	主として管理者が実施、現在継続的な関わりを必要としている利用者等は出ていないが、過去の退所者の中の一部の方に対して移動先の事業所等へ訪問、連絡を実施していた事例あり。	○	関わりの必要性の有無に関わらず、移動先で本人の心身状態がある程度落ち着くまでは関わりを持っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のかかわりの中で各利用者の希望等は表出しており、本人本位になるよう極力努めている。困難な希望等に関してはミーティング等で話し、極力検討するようにしている。	○ 実施が困難な希望等があるが、可能と思われるものに対しては極力対応していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者からの家族、本人を交え調整し把握し、入居時も家族より再度聞き取るようにしており、各職員へも情報提供を行い、入居時も普段の会話の中でこれまでの暮らし等が表出することもあり、把握するよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日での申し送り、記録、ミーティング等行うことで利用者の状態を把握するようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成に関して、家族、本人へ希望等を聞き反映するようにしている。計画書は家族へ開示、説明を行い再度希望等ないか聞いている。又、担当職員からもミーティング等にて意見を述べてもらいそれらを計画に反映できるように行っている。	○ 計画書作成に関して、担当職員へも参加してもらい、アセスメントの実施位までは計画作成担当者と共同で行ってほしい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	対応しきれないほどの状況変化は現在発生していないが、計画書は定期的に見直しや変更を行い、極力現状に即した計画書を作成するようにしている。又、本人、家族、職員からもミーティング等にて意見を述べてもらい、なるべく反映できるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日での昼夜のケア記録を利用者別に記入しており、申し送り（口頭、ノート利用での記録）もするようにしており、各職員情報共有はされている。又、必要に応じ計画書の見直し等に利用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の希望、状況に応じ外出、外泊、ホーム内での日常生活の支援等は随時行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的なボランティア団体の訪問や、災害時での協力体制の話等、各関係者との協力はされており、支援はされている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者からの他サービス利用の希望はなく、今のところ必要性は出ておらず、他事業所との話し合い等は実施されていない。	○	他事業所との情報交換を行い、各利用者に他サービス利用の必要の可能性が出てきた場合は速やかに対応できるようにしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	各利用者については現在必要とされていない部分が多く、共同は行われていない状況。	○	支援センターとの情報交換等はあるが、密でなく、今後よりよい利用者支援の為関係を多くしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	認知症に関して詳しい知識をもつ医師を望む。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	重度化した場合や終末期に関しての具体的な方針の作成が必要。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	重度化、ターミナルに関しての具体的な方針の作成が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が在宅あるいは他事業所へ移行する場合は、家族、関係機関等に十分な情報提供、説明、訪問等を行い利用者が次の生活を始めるのに極力心身のダメージを防ぐように支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者各自の心身の状態や性格などの人間性を考慮して対応している。又、個人の情報に関しての一切の記録等は原則外部へは持ち出し禁止としており、特別な理由がない限り第三者への情報提供も禁じており、漏洩しないようにしている。	○	各職員の価値判断にもよるが、利用者に対しての対応へは再度認識していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望表出、自己決定能力は心身のレベルによって異なるが、日常の中で本人が極力納得できるよう支援している。	○	利用者によっては表出しづらい希望等もあると思われる。利用者の表出した希望等には実施が困難な部分もあると思われるが積極的に声かけなど行い支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者はホームの日課に沿って過ごしてはいるが、希望等聞かれることもあり、表出した希望等には判断がしにくいものもあるが、極力対応できるよう支援している。	○	利用者一人ひとりのペースに合わせていくには困難な部分もあるが、利用者本位ということを念頭におき、極力対応していけるよう話し合いの場を持つなどしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利美容に関しては定期的に理容師が訪問、利用者の希望あれば特に制約はないので外部でも可能。現在特に希望者はなく、順応している。身だしなみに関してはどうしても同じ洋服になりがちな部分がみられる。	○	身だしなみ等など、利用者本位ということを考え、希望など聞き、できるだけ本人の希望に沿った支援をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>食事のメニューに関して、各利用者が食べたいもの等あるか聞き取るなどして取り入れていきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>事前に個人の希望を取った上で異なるものを出すと多少問題等が出てくるとされる為各利用者の希望のものを日替わりで出すなどの工夫をしたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>ホームでの業務進行状況、利用者の認知レベル等差があり、希望に沿った入浴は困難な部分あると思われる為心身レベルの高い利用者から希望を取り入れていく方法もあると思うので検討したい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>場合によってはグループ分けをするなどしてできるだけ個人の役割、楽しみ事がつくりやすいような体制をつくっていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者は少ない。ホームでは金銭を所持してはいけないとの決まりはないので、所有できる利用者へは所持してもらっており、利用者には現金をくださいとの希望を出す利用者もいる為定期的に手渡している。お金を使うことに関して、買い物等へ出ることが少ない状況である。	○	時間の取れそうな日時を選び本人の希望など取り入れ外出日をつくるなどして支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一部利用者は家族の希望等にて外出しているが、職員の付き添いでの外出は支援体制ができていない状況である。	○	空いている日時を選び、職員からの働きかけや、希望あれば支援したい。又、職員間での話し合いの場をつくりたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年二回花見会を実施しているが各利用者の行ってみたい場所に関しては希望の聞き取り、実施がない状況である。	○	希望により困難な場所等もあるが、利用者より希望を事前に聞き取るなどして、又、家族へも協力してもらえよう連絡し極力実施できるようにしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望あれば状況に応じて電話の取次ぎは実施しており、家族等からの連絡あった場合も取り次いでいるが、手紙でのやりとりはほとんどない状況にある。	○	職員側からの働きかけを行い季節に応じて手紙を出すなど行っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホーム内の状況、利用者の心身状態、時間帯等、特別な場合を除き訪問は受け入れており、訪問者は居室での談話もできるよう居心地よく過ごせるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特別な事項ない限り身体への拘束は一切行っておらず各職員が考慮し日常のケアを実施している。	○	身体拘束に関わる法的な理解をってもらうよう資料作成を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>場合によっては重大な事故につながりかねない事がある為、今後利用者の認知度低下も視野に入れ安全性確保の為所定の場所での保管に心がけたい。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>具体的なマニュアル作成や外部での講習も含めた勉強会、訓練を行いたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>具体的な対策（連絡先、初期的な対応等）の取り決めを行い、訓練等を実施していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	対応策はミーティング時に行っている。又、利用者が入居前には職員へ情報提供を行いリスクについての話も行っており、利用者になるべく負担にならないよう配慮している。家族へも入居前後に起こりうるリスクについて報告等を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常でのバイタルチェック、申し送り等昼夜を通して利用者の状態を把握するようにしており、利用者に変化あった場合は主治医のもとへ行くようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品についてはホームにて管理、用法用量については概ね理解はしており、ファイルからいつでも情報を確認できるようになっている。処方の変更でも申し送りや記録等行い確認するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動、排便チェック、薬剤調整、声かけによる水分摂取等、予防の為に働きかけに取り組んでいる。	○	便秘が身体に及ぼす影響等、医学的な理解が不足していると思われ資料の作成等行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、各利用者へは声かけを行い、介助が必要な利用者へは付き添い、声かけ、見守りを実施しており支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ食事の増減、種別等の変更を行っており、声かけ見守りやチェックを行い食事、水分の確保の為に支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策マニュアルは作成されているが、各職員へ伝達されていない状況にあり対策が遅れている。一部感染症に関しては事前に病院へ行き予防を行なっている。	○	様々な感染症に対しての勉強会や対応策を定期的に話し合いたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材への十分な加熱、保存行い管理している。器具類へも熱処理、薬品消毒を実施、手指洗浄へも気をつけており適切な管理はできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中での玄関の施錠はせず出入りは自由であり、家庭菜園、東屋、芝生などあり安心してホームへの出入りができるようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間での利用者に対する不快なものは設置しておらず配慮しており、季節に合ったものを飾るなど安心して過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各空間内へはソファや椅子、テーブルなど配置し利用者が自由に過ごせるよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現在のところ特にありません。